

改造修理

0018

盤四製園工場

九九

力三三三

陸之六二二

起案紙第一號

✓ 行在子

大正二年一月九日起案  
起案者  
日發行  
發行後起  
案者捺印

提案 艦長

大臣

次官

副

參事官

第四部

第三部

會計課

軍務局長

局員

經理局長

局員

股部

大正二年二月十二日  
吳工第五排三二九上申軍艦士  
駒正屋送風機械及通路等

0019

造ト忠下

但シ費用ハ官房第七之三編船倉修築内  
ニ支雜之シ  
(修)

備系)

(修)

大正二年度復旧修理費中建造船費船修費等  
武々(四)ハ本上申之事ノ為メニ訓令セリシ由

0021 0020

造件認許

但し造形部之事ハ全ク新式ナリ  
因ノ範圍内ニ施行スル

備考

(本館)

大正二年度復旧修理費中建造費船作費等家  
或ハ因ハ本上申之事ノ為メニ訓令セラルルニ由ル

0021

0020

司令長官

艦政本部

第三卷  
第四號  
會計

官房

吳工第九號ノ三九

大正元年十二月廿三日

吳海軍工廠長村上格一

海軍大臣男爵齋藤實殿

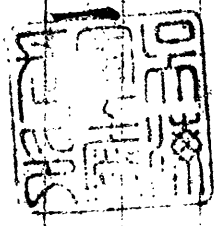
生駒正室送風機械及通風路等改造ノ件

軍艦生駒ハ近ニ特定修理施行ノ時期達ニテ廠従来ノ實  
驗ニ徴スルニ生駒送風機械ハ力量不足ニシテ構造堅牢ニシ  
テ故機械ノ動力發揮上遺憾甚カラス就テ此際之レヲ廢シ更  
有力ナル英國「アレシ社」タルビン式送風機械ヲ裝備シ且ツ之カ  
効果ヲ一層大ナラシメシカ爲メ上部風取口ヨリ送風機械ニ至ル通  
路ヲ擴大シ之レカ附帶ニ工事トシテ防禦甲板ニ於テ孔ノ大サヲ  
之レニ應ジテ變更スル事極メテ有利ト認メ奉奏右改造

參謀長

參謀

一月六日



0022

海軍

儀御認許相成様致度工事方按、重量増減費用概算  
等左記ノ通

右 上 申 ス

追テ本工事ハ同艦特定修理ノ時期ニ於テ施行致度豫定、處送風  
機械購買ノ都合モ有之候、身豫メ御認許ヲ得度次第ニ候

左 記

造船部所掌ニ属スルモノ

一 工事方按 別番ノ通り(丁一〇四四)

二 費用概算 金五万六千八百円

内

工 費 金貳千八百参拾円

材料費 金五万参千九百七拾円 (送風機械購入代ノ金)

本豫算ハ特定修理費豫算中ニテ支弁ノ豫定

海 軍

造船部所管ニ属スルモノ

三、工事方按

(一) 在室扇風機ニ強カクモラ改造セラルベキ其通風路全部十二ヶ所ヲ改造シ上部フードヲ改造ス

(二) 昇降口ノ高温ヲ防止スル為メ上甲板及中央甲板ノエーヤロッカーヲ撤去シテ之レヲ防壁甲板裏ニ新設シ且昇降筒内ニ換気法トシテ天井ニ空氣入ヲ新設シ下方ニ在室通風路ヲ導クニキト  
ラシクテラケレシグ内ニ設ク

四、入費概算 金壹万貳千四百五拾八圓四拾貳(付房費ヲ含ム)

内

工 費金六千百貳拾四圓八拾貳

材料費金六千參百參拾參圓六拾貳

五、重量増減 別表ノ通

海軍





陸海

陸海軍大臣

陸海軍大臣

陸海軍大臣

起案第一號

明治三十四年七月

日起案

九月九日

提案

艦政本部長

第三部長

部員

大臣

次官

參事官

副

會計課長

軍務局長

艦政本部長

主任局員

取部

軍務局長

局員

大正元年七月九日

海軍大臣

海軍大臣 第五號 第二〇七號 第三紀 陸海軍各艦水底

送

海軍

0026

12-27

湯清水唧筒新設の通仲認許ス

(別圖四葉返却分庫)

(終)

0027

士二八

本課

三

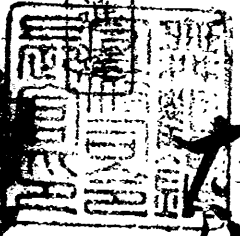
司令長官

參謀長

參謀  
副官

舞五第 五號

經理部



本課元  
三〇九海軍大臣長官  
海軍大臣長官



海軍大臣長官  
第三  
會計課  
改設  
水流防  
海軍大臣長官

海軍大臣長官  
改設  
水流防  
海軍大臣長官  
海軍大臣長官

海軍大臣長官  
改設  
水流防  
海軍大臣長官

海軍大臣長官

海軍大臣長官

0028

海軍省  
表三、八、七  
五月十八日

海軍省

海軍省 友友



十二月十六日 一五三  
録言八辨 白

0028

1.12.23  
12-23

<p>十二月十八日 舞鶴鎮守府 友友</p>	<p>南洋行、高ハ、重産増減 表三、ハ、少白、于、友友、送、取 海軍省 友友</p>
------------------------	--

0029

第十三驅逐隊白雲朝潮水流場清水唧筒新設改造

工事方案内費概算並工事日子算調書

一理由 明治四十五年六月官房第二二六〇號ヨリ新設改造ヲ要ス

一方案 村雨、陽炎、二艦ハ現在水流場清水海水兩用唧筒ヲ海水專

用唧筒ニ改造シ圖面ニ示ス位置ニ山形手働清水唧筒壹臺

新設ス

白雲朝潮ノ二艦ハ現在水流場用唧筒ハ海水專用唧筒ナレハ

其儘トシ山形手働清水唧筒壹臺及一吋八分ノ管ヲ以テ唧

筒ヨリ現在ノ清水タンク用清水管ニ接続セシムル様圖面ノ通り新設

改造ス

一入費概算 金參百參拾六圓四拾錢 四隻分 (所屬費共)

工費 金貳百參拾貳圓

材料費 金百〇四圓四拾錢

内譯

一 工事日子

着手ヨリ一月

一 重量増減

村雨 陽炎  
白雲 朝潮

○<sub>シ</sub>一〇 (一隻分) 増加  
○<sub>シ</sub>一五 (一隻分) 増加

終

0031



件認許ス

終

0033



司令官

五

十二月十一日進達

吳工第四號ノ五四四

大正九年十一月十日

吳海軍工廠長村上格

經理部

海軍大臣男爵齋藤實殿

軍艦淺間錨架改造ノ件

軍艦淺間現在、錨架ハ其下部蝶番部ニ亀裂ヲ生ジ  
使用上危険ナル原形、通リ新製スルハ工事困難ナル付キ  
別紙首欄、通リ改造致度左記ノ費概算等調査

右ノ上申ス

入費概算

材料費金壹千參百貳拾円

艦政本部

第三號

會計課

海軍省

第...

官房...

海軍

0034

工費 金九百七円

合計 金貳千貳百貳拾七円 (什居費ヲ含ム)

一 工事日数 五拾日間

一 重量増減 別表ノ通り

(別紙番面貳葉増減表壹葉添テ)

(了)

海軍

0035

及先

號一第紙單案起

明治二十九年五月

日起案

九日

第三部長

第一部長

會計課長

提案

參事官

第三部長

第一部長

會計課長

大臣

次官

參事官

副

山梨

會計課長

軍務局長

經理局長

經理局長

主任局員

海軍

海軍

大正二十九年五月九日

海軍大臣

馬場司令官

駁運艇不知火彈藥庫通風管修理件

發送

官房

五八號

海軍

驅逐艇不知火彈藥庫通風装置改造方別表同面  
修了予施了之

但本表電報事務及修理費支弁別表取付書

除算有補修事了未完成上完成同面及重量

増減表等入費決算書添付世保防手計ヲ  
報告了之

報告了之

右訓令云

(別表第百九十九號)

(統)

官房第百五十八號

大正九年九月九日

海軍大臣

佐法司長官

驅逐艇不知火彈藥庫通風装置改造方

本件別表、面下馬公西港部司令官及訓令云

右心得之

(別表第百九十九號)

(統)

0037





陸軍

陸

艦政本部

軍務局

軍令部

軍令部第四〇一號

大正二年十月八日

吳鎮守府司令長官 加藤友三郎

海軍大臣 野澤宗太郎

驅逐艦隊 帆布艇ヲ通船

本件官立艦隊 核実者ハ五ノ三ノ部ニ訓令

相成治ニ付テハ 實験ニ供スル 驅逐艦

右報告ス

第一班 第二班 第三班

海軍

艦政 10-14

2月15日 軍令部接文

0040

0041

起案罪紙第一號

明治二十二年一月十六日起案

起案者 捺印

二月一日發付

發付者 捺印

發付者 捺印

大藏

總政務部

第三部長

大

官

參事官

副官

會計課長

電氣

電氣

電氣

電氣

電氣

電氣

經理局長

勝

局員

重

服部

事務局長

局員

局員

明治二十二年二月一日  
海軍大臣  
依前例回令二軍艦利根紀大坊等  
因兵用傳聲管一部改造、件、忌、汗

發送

一三一三

要旨

官房

豫算

兵器納納整理機  
保存在文庫





一月十日進

佐廠第 四 號

明治三十四年一月七日

佐世保海軍工廠長士内書三

經理部

佐世保海軍工廠長印

海軍大臣男爵齋藤實殿

利根砲火指揮通信用傳聲管一部改造件

軍艦利根砲火指揮通信用傳聲管一部改造件

全艦長官別紙信身請求有之調査及

必要之認ノ下各口諸許相成度

右 上 申

二中大專入員概算等調査

平島清海軍工廠長

佐世保海軍工廠第一二二二號

参謀

参謀

福

又付第一月八日

北村

0043

軍艦利根砲火指揮通信用傳声管一部改造工事方案

入費概算等調書

工事方案、別圖ニ示ス如ク前後部ニ橋共側方ニ開口セル傳声管ヲ前部

ハ操舵室側壁ニ後部ハ海図室後方兩隅ノ直上ニ開口ス如ク切縮メ

移動蛇管ヲ附シテ便宜所要ノ位置ニ達セシム又上甲板兩舷四七吋及

三吋砲指揮所ニ於ケルモハ「ゲ」シテ測ノ管口ヨリ適宜ノ蛇管ヲ附シテ

臨機砲側ト巨離ヲ短縮シ得ル様ニス

入費概算 金七五四〇〇〇

工費 二五〇、〇〇〇

材料費 四〇〇、〇〇〇

附屬費 一〇四、〇〇〇

工事日数 二十日間

(終)

海軍

軍艦別機他大指揮船使用傳書

一部取直、件ノ取直上取直機取直

一、取直山田也取直取直

由、取直入取直八日取直

材料取直取直

海軍取直取直取直取直

一、取直日取直三日

右

海軍

0045



大正元年十月二十六日 於佐世保

利根艦長 行内次郎

佐世保海軍工廠長加藤定吉殿

船体ノ部修理請求ノ件

一砲火指揮通信用傳聲管

十二ヶ所

理由 下部命令所ヨリ前後繼橋ニ達スルモノハ今回ノ戰闘射

撃ノ實驗ノ結果ニ依ルニ各舷側端ニアル為メ前後六吋砲ノ

發動ノ爆風ヲ後ケ傳令員ヲ其位置ニ配スル能ハカルヲ以テ之

レヲ各繼橋ノ中央部ニ接シテ開口セシメ且ツ其開口ニハ移

動蛇管ヲ附スルノ必要ヲ認ム從テ此等前後繼橋ヨリ各中

部上甲板各砲台ニ通スル四箇ノ傳聲管口モ合様ニ移動蛇管ヲ

附セカレバ傳令ノ確實ヲ期シ難シ

海軍

0046

右請求大

(終)

海

軍

0047



駆逐艦不知火彈藥庫通風装置改造入費決算摘要

一金八拾円

職工費

一金百拾貳円

材料費

合計金百九拾貳円

海軍

0049



海軍省

艦政本部

軍務部

試驗成績  
圖章格納

軍令部

皇領機密五七九號

大正二年十月廿五日

第三報 禮田 要項字存目令長官代理

會計課

機密

海軍中將 村上格一

局員

一軍艦伊吹旋回力試驗成績

右進達不

(別紙を通添)

第一班

機密 11-1

十月廿五日 2月入  
海軍省機密 不  
海軍省機密 不

2月廿五日  
軍務局機密

2.10.29

0050

海軍

至急

起案第一號

大正

二年一月

日

起案

十七日

發行

提案

艦政本部長

第三部長

部員

大臣

次官

參事官

副官

會計課長

經理局長

勝

主任局

重

海軍

取部

清

電務局長

員

員

員

大正二年一月十四日

海軍大臣

佐野實

為一經隊各艦船體動搖程度兩調件

官房第一二五號

海軍

一月十日

0051

今回先般隊ノ南航ニ際シ各船ノ船體ノ動搖  
 程度兩週ノ内ニ海軍造船工持士ノ代筆ヲ  
 兼船七之九ニ自右側差ニ要アリ且置具材料  
 等ニ其存工廠ヲ之ニ取替スルニ其費用ハ  
 既配付造船及修理費納納由ヲ以テ支弁  
 七之九ニシ  
 右訓令云々  
 終

0052

0053

起案紙第一號

大正元年十一月七日起案

起案者

和

十一月九日發付

發付者

和

發付後起

案者

和

和

提案

提案者

和

大臣

次官

副官

參事官

第四部

第三部

第一部

會計課

經理局長

勝

局長

重

軍務局長

局長

局長

局長

大正元年五月五日  
橫濱正金銀行  
鎮守府司令長官  
船政廳  
復旧修理  
件

發送  
番號  
二七三

官房  
長官

軍備補充費支辨ニ係ル復旧修理別紙  
 通リ艦船造修試験検査規則ニ據リ工事  
 施行スベシ  
 且艦役務ノ都合ヲ見計ヒ認可シ度々  
 著手スル義ト心得ベシ  
 右訓令ス  
 (別紙添葉添ユ)

(3)

0054

海軍

横鎮所管

大正二年陸軍備補充費造船費及修理費造船費及修理費

艦艇復旧修理

艦艇

事項

金額

音

羽

艦艇復旧修理費不善ノ事入替及  
概算検査修理船体印修理

一四五〇〇〇〇〇

3

花

0055

鎮所

軍備補之費造船及修理費

艦艇復旧修理

艦艇名

生駒

改造及修理費

按年水費月船体修理

一七九六	一〇〇〇〇〇〇〇	二七〇六	八〇〇〇〇〇〇〇
一七九八	一〇〇〇〇〇〇〇	二七〇六	八〇〇〇〇〇〇〇
一七九九	一〇〇〇〇〇〇〇	二七〇六	八〇〇〇〇〇〇〇
一八〇〇	一〇〇〇〇〇〇〇	二七〇六	八〇〇〇〇〇〇〇

(3)

花

0056





海軍

舞鎮所管

軍備補充費造船費及修理費造船及修理費

艦艇復旧修理

艦艇名 事 項

對馬 艦管復水器管不良、分替及檢閲  
紀檢査修理 船体中修理

追風 疾月 艦管復水器管替換間、紀檢査修理  
船体中修理

言

紀 題 大正三年度 今二年度

三〇〇〇〇〇〇〇

三五〇〇〇〇〇

三五〇〇〇〇〇

(3)

0058

印章  
原不一枚  
圖庫拾

起案第一號

明治三十二年二月廿九日

提議

大臣 **寺**

次官

艦政本部長

副官

參事官

第三部長

第一部長

第二部長

會計課長

水雷  
豫算

名議

大正三十二年三月十一日

海軍大臣

橫廠第四号、五艦逐艦山丸短艇等其地

發是... 第二九二號

主任局員

0059

3/3

改造件認許

別冊を第1部として

続

証

0060

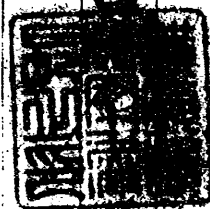
一月三十一日

進達

大正三年一月二十七日

横須賀海軍工廠長 加藤定吉

海軍大臣 男爵 齋藤 實 殿



參謀長

參謀

係

横濱支

2.1

185

四

五

長

官

係

係

係

係

係

係

艦政本部

艦政本部

第三

會計

驅逐艦山風短艇變更其他改造件

驅逐艦山風通船變更其他改造方關之別紙寫通

請求有之候處調査結果至當卜認之候條別紙工

事方按據之施行儀御認許相成度

右並申

(工事方按及入費概算書一通圖面正副貳枚請求書

枚書貳枚重畳増減表一枚添)

官房第二九二

海軍

海軍

0061

一月三十一日

艦政本部

第三  
會計課

横濱第

四 第五

第二長

參謀長

參謀

副官

係

横濱受

1.2.15

進達

大正三年一月二十七日

横須賀海軍工廠長 加藤定吉

海軍大臣 男爵 齋藤 實 殿



驅逐艦山風短艇變更其他改造ノ件

驅逐艦山風通船變更其他改造方ニ関シ別紙寫通  
請求有之候處調査、結果至當ト認メ候條別紙工  
事方按據ノ施行ノ儀御認許相成度

右並申

(工事方按及入費概算書一通圖面正副貳枚、請求書

枚書貳枚、重量増減表一枚添)

官房第一九二號

海軍

0062 0061

185

大正二年二月二十日

電話 中 誠 信 本 行

運 部 改 名

海軍省 副 長

横須賀海軍工廠 副 長

副 官



海軍省 第二二二二二

0063

本件経歴 十八日 改正

大正二年二月二十日

横須賀海軍工廠

参謀長 横須賀海軍工廠 副 官

副 官

本件経歴 十八日 改正  
如右 改正 変更 之 別 紙  
御 訂 正 上 提 出 申 上 有  
御 訂 正 申 上 申 度

何

0063

本件可共並新初卷

並事初初卷

大正三年二月二十

横須賀鎮守府

副官

検査官

造船部長

0064

横須賀海軍工廠副官

参謀長

参謀

副官

横須賀鎮守府副官

係

副官

本件短艇十六只之改造

即若以止、高安更之別名及別

部訂正上控知小東可越

御取可未取度

2.2.28

大正三年二月廿七日

驅逐船山風短艇変更其他改造工事方案及

入費概算書

短艇変更

方案

現在搭載拾貳呎通船ヲ廢之貳拾呎通船ニ變

更ノ事

是ニ要スル知セツト及揚卸之要具一切ハ貳拾呎機

動艇搭載ノ爲メ取除クハキ左艇帆布艇ノモノヲ其

他利用スル事 (別圖参照)

入費概算

金貳百六拾六系八拾錢

内譯

每

巨

0065



材料費金百五拾系

工費金八拾系

附屬費金六拾六系八拾銭

二魚雷打揚用ノ外ビツト新設

方案

現在ノ后部ニ在ルモノト同様ナルヲ外ビツトヲ圖面ノ位置

ニ新設之是ニ要スル附屬具ヲ完備スル事

入費概算

金百四拾五系

内譯

材料費金六拾五系

工費金六拾系

附屬費金六拾系

0066

三 艦橋梯子及救命浮標金具取除

方案

現在、艦橋甲板より艦橋昇降用梯子及艦橋下両舷側ニ取付ケル救命浮標金具取除ノ事

(図面参照)

入費概算

金拾七系四拾銭

内譯

材料費金五系

工費金拾系

附属費金貳系四拾銭

以上總計金四百貳拾九系貳拾銭

内譯

毎

厘

0067

材料費金貳百貳拾元

工費金百五拾元

附屬費金五拾九元貳拾錢

工事日數 貳拾日間

右之通

大正二年二月廿六日

横須賀海軍工廠造船部長 小山吉郎



0068



艦隊山風請求書抜書

修理三部

十六艦第一九二九號

(大正元年十一月廿七日  
大島第一艦隊司令部請求)

十. 救命浮標掛物

貳回

理由 不必要ニ付取外ニシテ要ス

六. 前部ヨリ艦橋ノ階段

壹回

理由 右ノ如ク

新設之部

十六艦第一九二七號

(大正元年十一月十八日  
大島第一艦隊司令部請求)

一. 魚雷引揚用ノエンジン

壹回

理由 齊度ヲ行ヒタル場合ノ如キ採取ノ時非常ニ

0069

東京三浦印行

不便之感之時間多空費スルコト甚之依テ海風  
同様更ニ港内増設ヲ要ス

改造部

十六駆第三九號

大正二年一月十三日  
大島第三九號駆逐隊司令官 謹啓

下通船

吉隻

理由 現在備付本艦通船ハ十二呎ノモノニシテ余リニ  
小ニ過キ軍港内碇泊中海上靜控ノ時ニ於テス  
ラ外艦駛トシテノ用ニ難スルト殆ド不可能ナリ  
況中港外ニ出テ魚雷發射等ヲサセトスル際  
標的船トシテ之ヲ使用スルトハ絶対的不可  
ナリ然レバ魚雷發射ニ當リテ他ノカワタリ及  
ボケ等ハ之ヲ接收艦及監視艦視候トシテ

使用之通船ヲ標的艇トシテ使用スルヲ常トスレバ本  
艇之通船ハ其用ヲササス今日ニ至ルニテ只備付、名目  
アノミニテ殆ト使用セザル有様ニシテ其不便ヲ感  
スルノ事大ナリニカ大正元年施行ノ大演習中譯  
中右炭搭載ノ際毀損之目下修理上申中ナリ仍テ  
其際海風全様ニ吹通船ニ改造相成度

(終)